

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800060		
法人名	有限会社政経		
事業所名	グループホーム牧之原波津の家 (1号館 2号館 合同)		
所在地	静岡県牧之原市波津1324番地17		
自己評価作成日	平成26年8月30日	評価結果市町村受理日	平成26年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2295800060-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設6年目を迎え近隣の方のご好意でみかん・トマト・花を収穫させて頂いたり、地域の公民館祭りや幼稚園児による慰問等地域の中の施設として少しずつ認知されてきたと思います。
利用者様個々の想いを大切に、散歩コースを決めたり、出来る家事仕事をして頂く中で、コミュニケーションを図り笑顔で生活できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念“ゆったり楽しく自由に、の言葉通り、来客をもてなす利用者からは明るくのびやかなおしゃべりと笑顔が弾けています。本年の取組みで特筆すべき点は、3月より看護師配置と訪問歯科の口腔ケア指導が入ったことです。医療連携体制が整い、状態変化の早期発見と医学的知識を習得するスキルが向上しています。一方、海抜5メートルという厳しい立地条件の中での危機感から、行政や消防の力添えて実戦ながらの訓練を繰り返した結果、職員の意識向上と避難誘導手順が徹底されました。一人ひとりの命を担う責任と真摯に向き合うチームワークが牧之原波津の家をあたたく包んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかりやすい所に理念を貼りゆったりと楽しく自由に暮らせるようにしている。	理念は事務所に掲示し、朝礼や職員会議では笑顔を引き出すケアができたか振り返っています。来客にお茶を出す利用者の笑顔が弾み、明るくのびやかに昔話をする様子から日頃の実践が覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人と挨拶したり隣の畑の人からお花や新鮮な野菜や苗もいただき指導も時々あります。	隣人からは頻回にお裾分けがありご近所づきあいが続いており、また散歩先では利用者に声をかけてもらえる間柄となりました。近隣の事業所からイベント招待もあり年に一度幼稚園とのふれあいも恒例となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での参加は、しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行いサービスの向上にいかしている。	2ヶ月ごとに定期開催し、防災面では懸念される津波避難について話し合うことが増えています。敬老会との併催で家族も大勢出席し、歯科衛生士による研修では口腔ケアの重要性を学び日常に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は毎回2・3名の市の担当者の参加を頂いている。津波対策等の案も頂いている。 介護相談員の訪問もあります。	海拔5メートルという立地条件の厳しさから災害対策では特に支援体制が堅固で、訓練へのアドバイスも多々あります。2ヶ月に一度介護相談員も訪問もあり、利用者の話にゆっくり耳を傾けてもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、利用者の立場に立ち安心して介護が受けられるような環境を整えています。	とっさに出てしまう言葉も利用者は敏感にキャッチするためその場で聞いた職員が注意を促しています。本人が行きたい方向へ付き添い、どのような行動を望んでいるかを見極めたケアができるよう会議では事例をあげ認識を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加してもらい理解し管理者も注意するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の場で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は入居時家族に十分な説明をして納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も出席して頂き要望等あれば言うて頂く。	運営推進会議には毎回参加が得られ、また利用料の書類が手渡しのため少なくとも月に一度面会があります。食事介助の応援もあり日頃の様子から気づいた点は管理者に報告してもらえ関係が作られています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は毎月1回行われ話し合っている。	職員会議では外出や外食といったイベントのアイデアも多く、利用者の状態変化にはチームで解決策を考える仕組みができています。個人面談は半年ごとに行い入職間もない職員には折に触れ声をかけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットリーダーを中心に改善案、サービス向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に2回の研修。年2回の研修や他にも交流の機会もある。管理者のみの勉強会もあり参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のデイサービスやグループホームとの交流。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の要望をよく聞き信頼関係が築ける等に行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時家族の要望をしっかりと聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のケアプランの期間を短くしケアプランを変更できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に何かをして頂く事で安定した暮らしとコミュニケーションを取っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来設を重視しコミュニケーションをはかっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅願望のある利用者もいるが、家族等の面会もあり協力的です。遠方の家族にはお手紙を出します。	出品した俳句展示会に出向いたり家族と馴染みの美容院に通う人もいます。編み物や縫い物といった趣味の継続もみられ、「毎日畑を見に行きたい」という利用者には散歩コースに組み込む工夫もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り歌や散歩等支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要あれば相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り行っている。	生活歴や家庭環境を把握し、隣で寄り添うなかで聞かれる言葉や表情から汲み取れる想いを大切にしています。一対一の散歩や湯船に浸かってリラックスした時の会話は本心を覗ける機会として捉えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活していく中で新たな生活歴があればそれらを職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを持つようにし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望を聞き職員で話し合いケアに反映できるようにしている。	ユニット会議で職員全員の視点から現状を捉え、モニタリング、カンファレンスを行って計画作成担当者がプラン化しています。家族にはケアプラン原案を提示して意見や要望を聴きプランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議において話し合いケアの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩コースもいくつかあり声かけし楽しめるよう支援している。近隣との関わりも持っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を重視し対応している。	家族によるかかりつけ医の受診が約半数ありますが、バイタルや状態変化を書面で手渡し結果は介護詳細と申し送りノートで共有することで連携に努めています。看護師と訪問歯科により医療面での心強いサポートが確保されました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3月から看護師が勤務し、変化や気づいた事で対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へは必ず様子を見に行き関係者家族と情報交換ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めの家族の意向を聞きながら話し合いチームでの支援に取り組んでいる。	過去に実績はありません。現時点で対象となる人はいませんが3月より看護師配置となり重度化への対応も可能となっています。医療機関との連携と家族の理解・協力といった条件が整った場合には職員も取組む気構えをもっています。	医療連携体制が整ったことから、重度化についてあらためて職員間での話し合いをもつことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は講習会等に参加したり職員も総合訓練等で勉強しているが定期的に行う様にしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練は年2回行っている。地域との協力体制が築けるよう地域での活動に参加や、搬送の訓練を行っている。	消防団員が立ち合い、毛布を使った実践さながらの搬送を職員交代で行って課題抽出しています。避難地までの時間計測や避難誘導手順の徹底、ライフジャケットやヘルメットの装着訓練と余念がありません。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけになるよう心がけている。	親しい仲でも礼節をわきまえ、常時見られているという意識をもって接するよう職員会議で伝えています。同じ言動でも人によって受け止め方が異なるため、現場でお互いが注意し合い意識を高めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外気浴に出る時なども全員に声かけし希望者のみにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を沢山着てしまわないよう常に関心を持ちおしゃれが出来ていたら誉めるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜作りをしたので一緒に収穫したり準備やかたづけ等出来る人には手伝ってもらっています。	採れたての野菜が食卓にのぼり、嗜好調査をはじめ「今日は何を食べたい？」と日毎に聞いてメニューの参考にしています。食材は2～3日ごとに利用者と買い物に行き、下ごしらえや片付けにも役割が発揮されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や小さめに切ったりして食べやすい状態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや介助にて行っている。月に訪問歯科医院の検診も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表は全員付けトイレで排泄できるよう声かけし介助している。	個々の習慣や生活リズム、チェック表に基づきさりげない誘導を促し、暑い時季や排泄パターンが掴める人はリハパンから綿パンツへの移行ができないか常に検討しています。夜間は安眠優先としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取に気をつけ排便薬も個々に沿った支援となっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が決めた希望とかもあるので個々に添った支援となっています。毎日入浴提供しています。	「家にいるなら毎日入って当たり前」の考えで本人の希望に添った入浴が叶っています。脱衣所は5Sが守られ足ふきマットは一人ひとり交換し、冬季は保湿作用のある米ぬかを入浴剤としています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に対応できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新薬になった時などほかの職員に分かるようにノートに書いたり変化に気をつけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った行事を考え行ったり買い物にも同行してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力が得られています。	一日を通して外気浴や散歩に出かける姿が行き交い、神社、高台、畑とその日の気分に合ったコースを巡っています。付近の畑で枇杷、グミ、みかん狩りもでき、家族と共に外食やお墓参り、地区の祭典にはお宮まで足を延ばす人もいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に買い物に行くようにしている。支払もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんたちと一緒に作った作品等を飾ったりお花も飾ったりしています。	玄関や事務所窓口には利用者が活けた花が出迎え季節を知らせます。複数のソファはじっくりテレビに見入って個を愉しむ空間であったり賑やかなおしゃべりの場として活用されています。温度湿度は利用者に合わせ都度調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に仲良く過ごせるよう間に入り話題を提供している。女子会も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	置けるスペースを考えていただき使用していたものを自由に置いて頂いています。	仲良しを自室に招き入れてお茶やお菓子を囲む“女子会”もあります。大切な手紙をしまう箱、きれいに並べられた化粧品、たくさんの服が掛けられたハンガーラックとその人らしい生活が垣間見えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのその日の状態状況を職員が把握できるようにしています。		